



津幡南中だより

津幡町立津幡南中学校

校長 永井 隆和 TEL288-7420

令和4年9月13日(火) 特別号

校訓 ☆燃えるような情熱 ☆ひたむきな純粋さ ☆たゆみない向上心

令和4年度の学力調査結果を受けて

4月に3年生は「全国学力学習状況調査」・「県基礎学力調査」、2年生は「町学力調査」を実施し、8月下旬に結果が届きました。その結果と今後の対策についてお知らせします。

〔実施された学力テスト〕

全国学力・学習状況調査：3年〔国語・数学・理科〕

県学力調査：3年〔社会・英語〕

町学力調査：2年〔国語・社会・数学・理科・英語〕

〔学力テストの結果〕

下記表中の印(◎○□△▲)は、本校の平均正答率を、国や県の平均正答率と比較したものです。

◎…高い(+5ポイント以上) ○…やや高い(+2.0~+4.9ポイント) □…ほぼ同じ(-1.9~+1.9ポイント)

△…やや低い(-2.0~-4.9ポイント) ▲…低い(-5ポイント以上)

		国語	社会	数学	理科	英語
3年	国との比較	○	▲	○	○	▲
	県との比較	□	▲	△	△	▲
2年	国との比較	○	◎	◎	◎	○

以上のように、学力調査結果から見た本校生徒の学習状況は、国と比べ概ね良好です。しかし、県と比較すると、教科によっては県平均より下回るものもあり、領域や分野別に分析した結果、課題も見につき、2学期からは下記の実施に力を入れています。

◇教科別の傾向と対策

【国語】

- ・「知識及び技能」の面で理解度が低い分野があるため、授業で十分に押さえ、関連のある授業や定期テストで取り上げながら定着させていく必要がある。
- ・問われていることに対する答えの書きぶりが不十分な解答が見られるため、文章を書く際に、条件を丁寧に確認して取り組んだり、生徒同士で読み合わせたりすることを通して、書き方を理解できるようにしていく。

【社会】

- ・どの分野においても、活用題の正答率に課題が見られる。資料を読み取るスキルはもちろんのこと、他の資料と関連付けて表現できる資質を養いたい。そのためには、授業で学んだことを試す問題(活用題)をくり返し、定期的に解く必要がある。
- ・基礎用語は定着しているが、それが地図上でどこにあるのか、どの部分を示すのか、についての課題が見られる。語句と場所をつなげて理解させるために、地図帳の活用や資料を用いた授業展開を行っていく。

【数学】

- ・理由や証明など、文章記入の問題においての無解答率が高い。特に度数分布表の特徴についてはどのように書いてよいかわからず、苦手意識を持っている生徒が多い。そのため、2学期からの授業においては、解き方についての理由をペア学習などを通して、数学的な言葉で説明することを進めていく。
- ・定期テストにおいても、記述問題(証明や説明)を取り入れ、取り組む機会を増やしていく。

【理科】

- ・問題文の意味を正確に理解していないなど、全体的に読解力に乏しい面が見られる。
- ・実践問題に取り組む機会を多く設け、個別の考察やグループ活動に言語活動を多く取り込み、指導していきたい。

【英語】

- ・聞いたり、読んだりした内容をもとに自分の考えを表現したり、内容を言い換えたりする力が弱い。聞いたり、読んだりする活動で終わるのではなく、さらに自分の言葉でまとめたり、第三者に伝えたりする活動を取り入れていく。
- ・英語を苦手とする生徒でも書いたり、話したりすることに対し、抵抗なく取り組むことができるように、良い例を参考にさせ、少しでも表現できるようにしていく。